SANNOHE TOWN TOPICS
タウントピックス

まちのわだい

8/22 山善鉄工建設㈱が町に事業所を開設
地元出身者の雇用を促進

（左から）三浦部長、大清水代表取締役、松尾町長

岩手県二戸市に本社を構え、建築用鉄骨の製作加工を行っている山善鉄工建設㈱（大清水久代表取締役）は、三戸町目時地区に事業所を開設することに伴い、青森県および町の誘致企業として基本協定を締結しました。役場で行われた調印式には、大清水代表取締役、県商工労働部の三浦雅彦部長、松尾和彦町長が出席し、協定書に調印しました。本協定は、同社が地元出身者を優先的に従業員として雇用することや、県および町が事業所の円滑な運営や人員確保に可能な範囲で協力する内容となっています。

松尾町長は「雇用機会が増えたことで、若者が地域に定着してくれることを期待したい。円滑に業務が遂行できるよう、町もできる限り協力します」と話しました。大清水代表取締役は「技術力や生産性向上のため、地域とともに協力していきたい」と意気込みました。

（左から）山家さん、山﨑代表、松尾町長

8/22 黎地フィルムが映画「日本一の晴れ男」脚本を寄贈
大学生制作の長編映画、ご覧あれ！

全国各地の大学生らで構成された映画制作団体「黎地フィルム」（山﨑すがら代表）は、ことし３月に三戸町で撮影した映画「日本一の晴れ男」の脚本を町に寄贈しました。制作メンバーに三戸高校の卒業生がいた縁もあり、初の長編映画を三戸町内で撮影しました。山﨑代表は「三戸町に滞在したことで歴史や文化をたくさん知り、この町でしか撮れない映画だと思いました。ぜひ皆さんにご覧いただきたいです」と話しました。出演者の山家輝夏さんは「コロナ禍で思うように映画を撮れなくて大変でしたが、無事に制作できてうれしい。コロナ禍を生きる若者の叫びを感じてほしいです」と力を込めました。

脚本を受け取った松尾和彦町長は「大学生と町民の皆さんが力を合わせて撮影したこの映画を、ぜひ多くの人たちに見てほしい」と話しました。

8/25 斗川小で「人権教室」を開催
思いやりの心を養う

根立さんの講話を聞く児童たち

小中一貫三戸学園斗川小学校（小田桐幸春校長）は、三戸町人権擁護委員の根立朋子さんを講師に招き、４・５年生の児童９人を対象に人権教室を行いました。

人権教室で子どもたちは「いじめ」という行為を例に、他人への思いやりや、いたわりの心といった人権尊重意識を養いました。

参加した児童たちは「人にされていやなことは、自分もしないように気をつけたい」「みんなと仲良くなれる方法をたくさん知りました」と話し、多くのことを学んだようです。

8/26 小学生おはなし会

物語を聞き、想像を巡らせる

「ウヒアハ」の読み聞かせ

小学生おはなし会が小中一貫三戸学園三戸小学校（小林孝史校長）で行われ、三戸小学校5・6年生と斗川小学校4・5年生が参加しました。講演では、絵本『11 ぴきのねこ』の出版社であるこぐま社の元編集長・関谷裕子さんが講演を行いました。関谷さんは、スライドで町出身の漫画家である馬場のぼるさんが小学生時代に描いた絵や習字を紹介しました。また、馬場さんが大切にしていたユーモアや笑いについて解説。「笑いには、人をばかにする残酷な笑いもある。でも、馬場さんは人に嫌な思いをさせることは笑いの種にしなかった」と話し「気持ちのいい笑いを貫いた馬場さんを尊敬する。皆さんも良い笑いや、ユーモアについて考えてみて」と子どもたちに呼びかけました。

馬場さんについて話す関谷さん

読み聞かせでは、絵本とお話を楽しむ会「ウヒアハ」（久慈英子会長）のメンバーが4つの教室に分かれて絵本を読み上げたり、暗唱したりしました。子どもたちは熱心に聞き入り、それぞれの物語に込められた思いに想像を巡らせていました。

意見を交わす参加者の皆さん

9/3 三戸町まちづくり人財塾（第1回講座）

話し合いの手法を学ぼう

三戸町保健センター集団指導室で、話し合いをする際の進行役（ファシリテーター）を養成する三戸町まちづくり人財塾が行われ、21人が参加しました。青森大学社会学部教授および早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員の佐藤淳さんを講師に迎え、参加者は話し合いの手法について学びました。参加者は「町内会や職場で使える手法を学ぶことができた」「緊張しすぎないことで、参加者から意見が出やすくなると感じた」と感想を話しました。

※第2回講座からの参加も受け付けておりますので、ぜひご参加ください。

問い合わせ先：三戸町役場まちづくり推進課 ☎ 20-1117

詳しくは、こちらから▶

9/4 青森県民駅伝競走大会

たすきに想いをつないで翔ける

2区を走った馬場さん

第30回青森県民駅伝競走大会が新青森県総合運動公園陸上競技場周回コースで行われました。三戸町の代表選手9人は、26.1kmのコースを1時間33分48秒で走り抜き、総合17位、町の部で7位入賞を果たしました。また、第2区を走った馬場拓未さんは、町の部で区間賞となりました。

三戸町選手団の皆さん

【代表選手】第1区：山本文也（八戸学院光星高2年）　第2区：馬場拓未（三戸小6年）　第3区：佐々木一花（三戸小6年）　第4区：川市哲也（会社員）　第5区：佐々木涼蒼（三戸中7年）　第6区：上田千聖（三戸中8年）　第7区：芦澤勇太郎（三戸小中学校教員）　第8区：小川真由（三戸中9年）　第9区：中山広太郎（三戸中7年）

9/5 農業委員任命式、推進委員委嘱

町の農業推進に尽力

任命書を受け取る梅田会長

三戸町農業委員の任命式が役場で行われ、新しく選任された委員に松尾和彦町長から任命書が交付されました。松尾町長は「町の農業を支える農業委員として、今後の活躍を期待しています」と激励しました。農業委員の梅田晃会長は「農業や農地について困っていることがあれば、お気軽にご相談ください」と話しました。任命式終了後は、三戸町農地利用最適化推進委員の委嘱が行われました。

（左から）岩山支店長、武士澤理事長、原施設長

9/9 社会福祉法人恵心会が「SDGs 宣言書」を策定

地域と連携した介護福祉の実現を目指して

社会福祉法人恵心会（武士澤勝義理事長）は、法人設立 30 周年を迎えることに伴い、株式会社青森銀行（成田晋取締役頭取）の取引先の SDGs への取り組みを支援するサービス「＜あおぎん＞SDGs 取組評価サービス」を利用し、「SDGs 宣言書」を策定しました。特別養護老人ホーム鶴亀荘で、青森銀行三戸支店の岩山宗大支店長から武士澤理事長へ、宣言書が交付されました。このサービスを利用して宣言書を作成したのは、三戸町内では初めてで、社会福祉法人では県内初となります。宣言の内容は、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の積極的推進といった環境への配慮や、地域社会と連携した介護福祉の実現などとなっています。武士澤理事長は「評価サービスを利用し、環境への配慮に改善の余地が見られるため、特に力を入れようと思います。これからも地域との関わりを深めていきたい」と話しました。

9/12 国史跡三戸城跡城山公園でボランティアを実施

訪れる人に気持ちよく利用してほしい

肥料を散布する組合の皆さん

全国理容生活衛生同業組合は、毎年 9 月の第 2 月曜日を理容ボランティアの日としています。青森県理容生活衛生同業組合三戸支部（溜（たまり）俊明支部長）は、国史跡三戸城跡城山公園内の木々に肥料を散布しました。三戸支部の取り組みはことしで５回目となりました。溜支部長は「訪れる人が気持ちよく利用できるよう、これからも活動を続けていきたい」と話しました。

清掃活動に汗を流す皆さん

9/15 地域の有志が馬暦神社を清掃

気持ちよくで拝んでもらいたい

県の重要文化財に指定されている「唐馬の碑」がある馬暦神社の清掃奉仕活動を、地域の有志と松尾和彦町長、慶長隆光教育長が行いました。この活動は、神社をいつまでもきれいに保ちたいという思いで、定期的に行われています。活動に参加した竹林愛子さんは「参拝に来る皆さんに、気持ちよく拝んでもらいたいという思いで清掃しています。ぜひ立ち寄ってみてくださいね」と話し、作業に汗を流しました。